

◆授業のポイント◆

- ・ 思考力・判断力・表現力等を高める授業展開の工夫
- ・ 学習意欲の向上や学習習慣の確立を図る学習活動の工夫

社会科学学習指導案（歴史的分野）

日 時 平成22年6月4日（金）2校時
学 級 1年3組（男子17名 女子18名 計35名）
授業者 教 諭 小 松 豊 文

1 単 元 文明のおこりと日本の成り立ち

2 単元について

本単元は、人類の出現及び進化の過程と約1万年前から6世紀までのわが国の成立過程を大陸との交流に着目させながらとらえさせることをねらいとしている。約400万年前にアフリカ大陸東部の一隅に誕生した人類は進化を続けながら、世界中にその生活圏を建設するに至った。最後の氷河時代が終わると人類は文明を起こし、国家の仕組みを整えていった。わが国においても縄文文化、弥生文化の時代を経て国が生まれた。小さな国々が分立した時代を経て誕生した大和政権はその後勢力を強め、5世紀までには九州から東北地方南部に至る各地の豪族を従えた。その間、当時の豪族の権力の象徴として各地に巨大な前方後円墳がつけられ、大陸との交流もさかんに行われるようになった。こうして、わが国の国家としての基本的な枠組みが形成されていった。このように本単元で学習する内容は、わが国の古代から連綿と現在に続く文化について理解させるとともに、今後の歴史的分野の学習に興味・関心をもたせる上でも意義深いものであるといえる。

生徒は小学校6年の社会科学学習の「日本の歩み」で、具体的な歴史的事実や人物について学習しているが、生徒にとって、歴史の流れや特色を大観的にとらえることは必ずしも容易なことではない。本学級の生徒の実態として、約6割が社会科の学習に興味・関心をもって取り組んでおり、歴史的分野の学習については約7割の生徒が興味・関心をもって取り組んでいる。一方で、学習内容を知識として身に付けてはいるものの、歴史的事象について思考・判断し、自分のことばで表現できるまでには至っていない。そこで、既習内容を授業で生かす工夫を行い、さらに身近な郷土の歴史も関連させながら学習を進めることが、今後の歴史的分野の学習への興味・関心を引き起こすことにつながるものと考えられる。

したがって指導にあたっては、国際関係とも関連を十分に図りながら、史料等の読解を通して、その内容を生徒が理解できるようにするとともに、当時の人々の生活や考え方等にもふれることができるようにしたい。そして、視聴覚機器や模型等を活用して多くの遺跡や遺物にふれさせることで興味・関心をもたせるとともに、資料活用能力が高まるように工夫したい。さらに既習内容や経験等から予想を立てさせ、さまざまな資料をもとに検証させ、論述させるなど、思考力・判断力・表現力等々を高める授業展開を工夫していきたい。以上のような指導を通して、最終的に本校社会科が目指す、「社会的な見方・考え方」の育成につなげていきたい。

国語科の言語活動との関連については、「話すこと・聞くこと」（2）アの調べて分かったことや考えたことに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすることと関連している。

3 単元の目標

(1) 人類の出現や古代文明の発生、日本列島における人々の生活のあらましに対する関心を高め、意欲的に追究することができる。

(社会的事象への関心・意欲・態度)

(2) 金属器の使用、かんがい、文字の発達等から古代文明の特色をとらえ、日本の社会に与えた影響について考察することができる。

(社会的な思考・判断)

(3) 人類の出現や古代文明の発生、日本列島における人々の生活の変化について、さまざまな資料を収集し選択して活用し、表現することができる。

(資料活用の技能・表現)

(4) 人類が出現し古代文明が生まれたことや、その時期の日本列島における人々の生活が変化し、やがて東アジアと関わりながら国家が形成されていったあらましを理解し、その知識を身に付けることができる。

(社会的事象についての知識・理解)

4 単元の指導計画 (全6時間)

時	主題	学習内容	学習課題	時間
1	人類の出現と日本列島	・人類の出現と進化 ・日本列島の旧石器時代	・人類はどのように進化したのだろうか。	1
2	文明の発生と東アジア世界	・新石器時代 ・文明の発生 ・中国の古代帝国	・古代の文明には、どのような特色があるのだろうか。	1
3	縄文文化と弥生文化	・日本列島の誕生と縄文文化 ・弥生文化の成立	・日本列島に住む人々の生活は、どのように変化していったのだろうか。	1
4	国々の誕生と古墳文化	・国々の誕生 ・邪馬台国の女王 ・大和政権の発展 ・古墳文化	・日本列島の国々は、どのようにまとめられていったのだろうか。	1
5	大王の時代①	・中国・朝鮮との交流 ・大陸文化を伝えた渡来人	・日本は、中国・朝鮮とどのような交流をしていたのだろうか。	1
6	大王の時代②	・古墳文化の変容	・なぜ、巨大な前方後円墳はつくられなくなったのだろうか。	1 (本時)

5 本時の実際（6／6）

(1) 題 材 大王の時代②

(2) 目 標 古墳時代を象徴する前方後円墳の変遷を通して、以後の社会の変容について多面的・多角的に考え、論述することができる。

(3) 授業設計の工夫

① 思考力・判断力・表現力等を高める授業展開の工夫

「なぜ、巨大な前方後円墳はつくられなくなったのだろうか。」という問いに対する予想を立てさせる。その際、生徒が身に付けている既習内容や経験を生かして予想を立てさせるように工夫する。そして立てた予想を一つにまとめ、さまざまな資料を基にして調べ、検証した結果を自分なりに論述して、発表させる。

② 学習意欲の向上や学習習慣の確立を図る学習活動の工夫

サイクルシートを単元の第1時に配布し、予習で本時の学習課題の解決につながる課題に取り組みせ、導入段階における興味・関心を高めさせる。そして終末段階で自己評価を行わせ、課題への取組や課題解決についての自己評価をさせた後、復習課題で学習内容の確実な定着を図る。

(4) 展開

過程	時間	形態	学 習 活 動	○指導上の留意点 ◎評価 ※授業のポイントについて
導 入	6 分	一 斉	1 世紀ごとの前方後円墳の分布図を見て、気付いたことを発表する。 2 本時の学習課題を設定する。 〈学習課題：問い〉 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> なぜ、巨大な前方後円墳はつくられなくなったのだろうか。 </div>	○ 7世紀になると、前方後円墳の数が減ることを近畿地方を中心に着目させる。 ○ 時代を象徴する古墳の形態が変化した過程で、どのような時代の変化があったのか予想させるような学習課題とする。
展 開	7 分	グ ル ー プ	3 学習課題に対する予想を出す。 〈予想される生徒の反応〉 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前方後円墳をつくり過ぎて、土地が足りなくなったのではないか。 ・ 前方後円墳ばかりつくっていたので違う形の墓をつくりたくなつたのではないか。 ・ 前方後円墳をつくって王としての力を示す必要がなくなったのではないか。 ・ 前方後円墳をつくらされた人々（奴隷など）が重い労働に耐えられず、古墳づくりをやめたのではないか。 	○ 導入の学習活動を生かすとともに、前時までの学習内容も想起させる。 ○ 多面的・多角的に考察させる工夫を行う。 ○ 4人程度のグループで活動させ、予想をまとめさせ、発表させる。 ◎ 話し合い活動に意欲的に参加することができたか。 ※ 思考力・判断力・表現力等の育成

展 開	24分	グループ	<p>4 予想を資料に基づいて、検証する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大和朝廷の力の広がりという面から ・ 古墳文化の発達という面から ・ 仏教の広まりという面から ・ 稲作の普及という面から <p>5 予想を検証した結果をまとめ、発表する。 〈検証結果〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「大化の薄葬令」を基に大和朝廷の力の広がりという面から検証させる。 ○ 古墳の規模（外観）と内部のつくりの変化を基に、古墳文化の発達という面から検証させる。 ○ 飛鳥時代以降の仏教の広まりという面から検証させる。 ○ 水田の中につくられた前方後円墳（横瀬古墳）の写真を基に稲作の普及という面から検証させる。 ○ 検証の結果、得られたことをキーワードとして与えた上で、個別に記述させる。また、グループ内で記述した内容を共有化させ、多様な見方・考え方をとらえさせる。 ◎ 波線部を根拠にして、論述することができたか。 ○ 検証したことが次時の学習につながることを確認する。 <p>※ 言語活動の充実 ※ 思考力・判断力・表現力等の育成</p>
	10分	グループ↓個	<p><u>朝廷の命令</u>で墓のつくり方が決められ、<u>水田</u>をつぶしてまで大きな墓をつくることが禁止された。それで、<u>墓の内部</u>を美しくかざるようになった。また、<u>仏教の伝来</u>によって古墳より寺院や仏像の建築に力が入れられるようになり、権威を示す前方後円墳をつくる必要がなくなったから。</p>	
終末	3分	個	<p>6 本時の自己評価と次時の予告を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習内容を振り返らせ、サイクルシートの自己評価を具体的に記入させる。 ※ 学習習慣の確立